

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ハグプラス		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 13日		～ 令和 8年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 20日		～ 令和 8年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	実務経験が豊富な職員や保育士、心理士等の専門職による幅広い視点から支援を行っている。	年齢に応じた細やかな個別対応に取り組んでいる。特に思春期年齢の心理的な支援に積極的に取り組んでいる。活動時の様子を理解してもらうため保護者の行事等への参加機会を設けている。	家庭環境にも注視しながら、福祉サービスだけでなく学校や行政機関等と十分な連携をとり、多方面から支援の充実を図っていく。今後も行政や学校で開催される支援会議へ積極的に参加する。
2	SNS等の活用により、保護者及び職員間のコミュニケーションがスピーディーにとりやすい体制である。	通所時に十分な状態観察を行い、児童の成長や障がい特性、家庭環境の変化に対して、職員間での細やかな情報共有を行っている。複雑な事案に関しては、都度ミーティングの時間を確保し、速やかに改善できるように取り組んでいる。	職員間での十分な情報共有のため、会議録等の記録は閲覧し全員が周知できるよう取り組んでいる。
3	法人内でグループホーム、就労継続支援事業所を展開しており、児童の卒業後の進路についても保護者の希望に沿って情報提供を行うことができる。	社内会議等を通して、グループホーム及び就労についての情報収集を行っている。高学年や卒業が近い児童や保護者に対して、適切な情報提供を行い進路についての意識向上に取り組んでいる。	卒業後の進路について、見学や体験の機会を設けたり、児童の特性について進路先に繋げるなど細やかな助言を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安全な支援実施の為の様々なマニュアルやそれに対する職員研修、児童を含めた訓練等について、保護者への周知不足がある。	毎月の広報誌で職員研修や訓練の実施について紹介しているが、イベントに関心を持たれる保護者が多い。	毎月発行している広報誌の活用を継続していくが、目的と訓練であることを明記して理解してもらうことで周知に繋げたい。
2	非常勤職員が支援に必要な情報を十分に得られる時間が確保できていない場合がある。	毎月、会議を行っているが、非常勤職員については、出席者が少ないため、共有不足がある。	保護者からの要望や児童の状態変化、支援内容の変更などがあつた場合は、業務前後に確認する時間を設けたり、オンラインによるミーティング等の機会を活用し支援者全員で改善について検討する。
3	異学年児童が多く特性にも差があるため、外出行事等において、支援員が不足していると感じることがある。また、児童の安全を確保するために活動範囲が限定される場合がある。利用児童個々の変化に対応できるよう、	職員の定着は引き続き課題であると考えられる。学校の制時や家庭の事情等による急な変更に対応せざるを得ないことも多く、時間的な余裕がないため支援力向上について学びの機会が少ない。	実践現場での経験に加え、参加可能な研修を活用しながら職員の全体的な支援力向上を図る。新人職員が実務経験を重ねながら安心して学べる職場環境を計画的に整えていく。